連載

あのマチ・このムラ 地域おこし活躍中 No.37

札幌市の事例

－都市型農業・地域の再発見－

札幌市の農業について語るとき、都市型農業と地元住民の存在を無視することは出来ないでしょう。当研究所が、札幌市の東区、北区を対象に農業地域に近隣している地域住民に行ったアンケート調査によると、回答者全体の四〇％近くが「農地を残すべきである」と回答しています。また「公園などの緑地として整備すべき」と回答した人は全体の四二％にも達しました。この地域では、地元農産物及び農業に対して期待を抱いている消費者の存在が明らかになりました。

南区の農業と砥山地区の特徴

今回紹介する砥山地区のある南区は、札幌市の農家人口全体のうち東区、北区について第三位の位置をしめています。農家数構成比を経営形態別にみると、果樹がさかんであり、混合経営が札幌市の平均よりかなり少ないことが特徴です。

札幌市の農業振興や消費者との交流については、「さっぽろとれたてっこ」事業や「さっぽろ農学校」等を思い浮かべますが、今回は「砥山地区」での地域起こしの活動について取り上げます。砥山地区について語るとき、八剣山地域について触れなければなりません。

八剣山地域は、南区の簾舞、豊滝、砥山、小金湯の四地域のことをいいます。この地域は、札幌市の南西部に位置し、八剣山と豊平川に象徴される地域であり、標高一二〇〇ｍ級の札幌岳、神威岳、百松沢山とその山々から流れ出る渓流、豊平川の河岸段丘によって形成される盆地風の一大パノラマ地帯となっています。山裾には、ヒグマ、クマタカなども生息し、八剣山と豊平川が作り出す地層は多様性に富んでおり、五〇〇万年前の化石も層となって見ることが出

来ます。

　この地域は昔から、札幌の文化を支えている水と電気の供給地でもあり、豊平川流域には三つの浄水場と四つの水力発電所があり、札幌市民に必要な供給量（年間約二億トン）の九七パーセントを担っており、札幌市民のまさしく「命の水」であることは間違いありません。

　さて、ここで砥山地区の地域起こしに精力的に活動していらっしゃる方の中から、四人の方に登場いただきます。

　まず、瀬戸修一さんです。

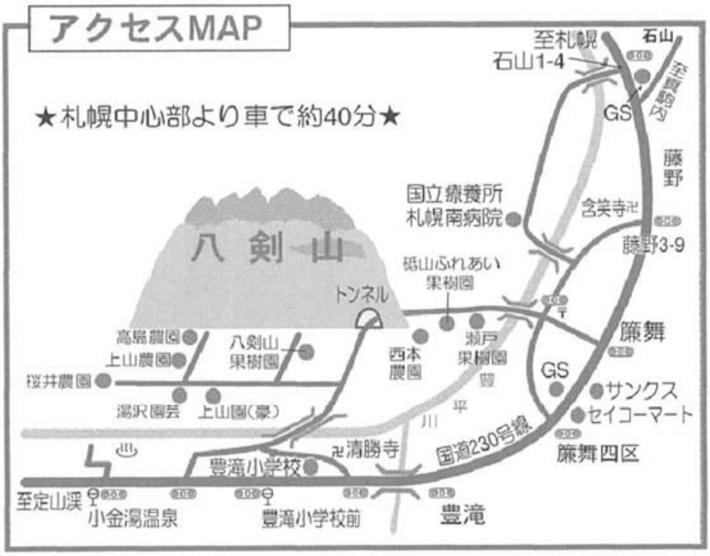
　瀬戸さんはＵターン農家で、六年前に砥山地区に戻って来るまでは、東京と埼玉で生活協同組合に勤務していました。手探りの中から、砥山農業クラブを発足させ、八剣山発見隊、八剣山・小金湯周辺まちづくり意見交換会の立ち上げまで、絶えず中心的な役割を演じてきた地域のリーダーの一人です。

現在の経営規模は二五〇アールで、その九五%が樹園地となっており、果樹はさくらんぼ五〇%、りんご三〇%、梅一〇%となっています。

　中村照子さんは、石狩中部地区農業改良普及センターに勤務しています。専門は都市農村交流であり、センターに着任以来、砥山地区の農業振興に参画しています。

　市民が農村に来て農業体験を通して学習出来る『砥山農業小学校』の開校と運営に携わり、カリキュラムの策定から技術的な応援まで、子供達には頼もしい存在です。

　佐藤範行さんは、北都企画設計事務所の社長さんで、中小企業家同友会の農業経営部会を通して瀬戸修一さんと知り合い、砥山地区の地域起こしに全面的に協力している方です。



八剣山発見隊の隊長であり、八剣山の魅力を語り始めると尽きることがない情熱家です。

最後にご紹介する方は、小林久公（ひさとも）さんで、定山渓沿線町内会連絡協議会の事務局長さんです。南区豊滝地区に在住し、砥山地区の地域起こしや発展に活躍しており、最近では「八剣山地域の環境を考える会」の世話人代表をしています。

地域起こし活動のきっかけ

地域起こしの活動について、そのきっかけを瀬戸さんに聞いてみました。

東京からUターンして来て果樹農家をやってみて、一人では何も出来ないことを痛感しました。農協を通して直売事業や加工事業が出来ないか模索してみましたが、もう少しで直売事業や加工施設が実現するという時に、農協内部での最終合意が出来ていなかったことを知らされた時は本当にショックでした。

ちょうどその時、中小企業家同友会の農業経営部会を通して異業種の仲間に出会うことが出来ました。佐藤範行さんはその一人です。個人事業主が同じ立場に立ち、同じ方向を向くことの意義を知らされました。その時に活動を開始したのが「いちごクラスター」や「八剣山発見隊」です。

その中核となる砥山農業クラブを紹介しましょう。

一 砥山農業クラブ

砥山農業クラブは、八剣山の麓に位置する札幌市南区砥山地区の専業農家八軒で構成する任意の営農集団です。二〇〇〇年四月に発足会を行いました。

【発足の経過】

砥山地区は、八剣山山麓にあった道路が一九七三年の岩石の崩落事故で通行禁止となってから完全に分断されてしまいました。地区住民の往来もほとんどなくなり、地区も山裾の通行行き止まりの地域として日常生活や経済活動等の環境にも大きな影響を受けることとなりました。一九九九年十二月に八剣山トンネルが開通し、二〇数年ぶりに砥山地区が道路で結ばれることになりました。

トンネルの開通を契機に、まず砥山地区の青年農業者の交流会を持とうということになり、二〇〇〇年一月に「第一回砥山地区青年農業者交流会」を開催しました。この時に活発な意見がかわされ、さっそく地区の宣伝ポスターやチラシを作成しようとか、登山道の整備をやろうという話がされました。二回目、三回目の青年農業者の交流・意見交換会を開催するうちに「一部の仲間の集まりではなく、砥山地区の農業者全体に開かれ、かつ発言や行動に責任をもつ団体にしたい。任意ではあるがしっかりした組織運営をしながら地域内部だけにとどまらず外部の地域や団体ともお付き合いが出来るような組織にしたい」という積極的な気運が急速に高まり、地域内の専業農家全戸に呼びかけて二〇〇〇年四月に「砥山農業クラブ」の発足となりました。

クラブの目的として「会員同士の交流。幅広い勉強会を持ち広い視野を持つ。共同して取り組める地域作りを提案し実践していく。農業者の有利販売を実現できる環境つくりを目指す」という趣旨が確認されました。

【砥山農業クラブの活動内容】

①地域広報のポスターとチラシ

の作成。
②個別農家の看板作成。
③北海道の「ふれあいファーム推進事業」に登録し、道の補助事業を受ける。
④農産加工品の開発のための調査、研究。道立食品加工研究所に冷凍サクランボを持ち込み、保存テストを行ったり、小果実の乾燥テストを行う。
⑤農産物を加工業者に提供して地区の農産加工品として販売する。例えば、「八剣山りんごワイン」や、菓子では砥山地区の「瀬戸さん家の雪華りんご」や「りんごどら焼き」、「りんご羊かん」等。
⑥いちごクラスターと連携し、砥山産の果実を使って市内七軒の菓子メーカーさんに菓子材料として使っていただき札幌市内で販売していただく。
⑦簾舞の「通行屋まつり」へ参加し、地元消費者への販売・交流活動を行う。
⑧連合町内会と連携し、「南区農のある街つくり事業」を行い、トンネルのアクセス整備や特産品開発、地域農家と地域住民との交流を行う。
⑨地区内で新規農作物を検討し、調理用トマトの試作やヤーコンのように作りやすく機能性も優れた作物を試作する。
⑩さくらんぼ祭や収穫祭のようなイベントを開催して消費者との交流を図る。
⑪安全で環境への負荷が少ない農業を目指す。会員農家がエコファーマーの取得を目指し、二〇〇三年には六軒の会員農家に認定がおりました。
⑫砥山農業小学校（農業体験企画）を開催する。

つぎに、砥山農業クラブの活動のうち、砥山農業小学校について紹介いたします。

砥山農業小学校

砥山農業小学校については、「農家の友」の二〇〇四年三月号に紹介記事が掲載されており、ご覧になった方もいらっしゃると思います。

石狩中部地区農業改良普及センターの中村照子さんにお話を伺いました。

市民が農村に来て農業体験を通して学習出来る『砥山農業小学校』が二〇〇三年五月に開校しました。対象は、現在と未来の農業応援団になりうる小学生と保護者で、初年度は一三組二七名、二年目の今年は一八組四七名の参加がありました。

今年度の年間カリキュラムは表1の通りですが、前年度に比較して子供たちに時間的な余裕を与えていること、果樹以外にジャガイモの収穫体験を盛り込むなど、子供達の心を惹きつけるよう、様々な工夫がされています。

前年度に参加した小学生の感想をアンケートに集計した結果を表2に掲載しました。

砥山農業小学校開校式の記念撮影

表1　2004年　砥山農業小学校

		学習内容
5月16日	午前	入学式 果樹園見学（果物の花摘み）
	午後	じゃがいも植え体験
6月13日	午前	りんごの摘果作業体験
	午後	ぶどうの皮はぎ、芽欠き作業体験 野菜畑観察 いちご収穫体験
7月11日		さくらんぼ祭

		学習内容
8月8日	午前	さくらんぼ収穫・ジャム作り体験
	午後	じゃがいもの収穫体験・試食
9月19日	午前	ぶどう収穫体験 りんご葉摘み作業体験
	午後	果物の花の押し花づくり体験 高山植物、山野草鉢花見学
10月3日	午前	りんごの収穫体験
	午後	交流会 卒業式

表2　2003年　砥山農業小学校　アンケート結果

月	対象	授業内容	評価点	月	対象	授業内容	評価点
5月	サクランボ・ウメ	花摘み	3.5	8月	通行屋	見学	3.4
	イチゴ	草取り	3.6		ウメ	漬け作り	3.8
	アスパラ畑	見学	2.8		草花	アレンジ	4.6
	リンゴ	摘果	4.5		サヤインゲン	収穫	4.7
6月	ブドウ	芽とり、皮はぎ	4.4	9月	ブドウ	収穫	4.6
	野菜	見学	3.8		リンゴ	葉摘み	3.8
	イチゴ	収穫	5.0		草花	押し花作り	4.9
7月	リンゴ	摘果	4.5		スィートコーン	収穫	3.8
	野菜	見学	3.8	10月	リンゴ	収穫	4.6
	プラム	摘果	3.9		クリ	収穫	4.7
	サクランボ	収穫	4.9		交流会	交流会	4.6

授業への評価では、いちごをはじめとして、サクランボ、りんご、サヤインゲン、クリの収穫への関心が高く、収穫する喜びを素直に答えていますが、サクランボの花摘みやイチゴの草取り、りんごの摘果等の作業があるからこそ、収穫の喜びが大きいのかもしれませんね、と中村さんは語ってくれました。

まだスタートしたばかりで、受講料金をどの程度に設定すれば良いのか、果樹農家側にどのような形でメリットを還元出来るか課題は多いのですよ、と言いながらも中村さんの優しいまなざしは将来の農業応援団（子供たち）に向いていました。

八剣山発見隊

八剣山発見隊の隊長である佐藤範行さんに、活動を開始した

きっかけを聞いてみました。

白石区内で一二年間にわたって街作りの委員長をしていたこともあり、建築家として街作りに関する勉強や情報収集をしていました。

中小企業家同友会の農業経営部会に所属しており、「食と自然」という人間が生きていくために根元的な問題について関心があり、この問題はとても大事なことだと考えていました。その農業経営部会でたまたま、南区砥山地区で果樹園を経営している瀬戸修一さんと知り合いました。

瀬戸さんの話を聞いて、自分が抱いていた街作りの話を思い起こし、個々の農家が結束して魅力的な地域づくりを図るべきと考え、応援団を結成しました。

結成するからには農業応援団に名前を付けよう、ということでつけた名前が「八剣山発見隊」であり、そこには「砥山地区の象徴である八剣山と地元の魅力を再発見しよう」という願いを込めました。

プラムの実の摘果作業

りんごの実の摘果作業

さやいんげんの収穫作業

一 八剣山発見隊の活動

八剣山発見隊は二〇〇二年三月に発足しました。二〇〇四年度は一五名の事務局体制ができ、会員は四〇名。広報誌の発行も行っています。

八剣山発見隊の活動目標を次のように定めました。

①八剣山周辺の豊かな自然環境や魅力を掘り起こすこと。

②八剣山周辺の豊かな自然環境を維持していく方策を考え実践すること。

③八剣山周辺の自然や魅力をどのように地元や周辺地域の方々に利用してもらえるかを考えること。

④八剣山周辺の自然や魅力を地域経済や生活の活性化に結びつける方策を考え提案すること。

⑤八剣山周辺の自然や魅力を子供達の教育に生かせるように提案することです。

二〇〇三年の活動の歩みを以下に記述しますと、二月（越冬野菜掘り出しと試食）、二月（しばれ紋様の陶芸体験）、四月（桜

の苗木植樹、八剣山裾の探検）、四月（豊平川をゴムボートで川下り）、五月（春の小川ファミリーコンサート）、六月（オールディズコンサート）、七月（サクランボ祭り）、八月（梅もぎと梅漬け作り体験）、九月（豊平川湖畔清掃と八剣山登山清掃）、九月（環境講演会：主催 環境を考える会）、一〇月（収穫交歓会：主催 中小企業家同友会）、十一月（越冬野菜貯蔵体験）他、盛りだくさんの内容です。

アレンジした鉢花との記念撮影

春の小川のファミリーコンサート

二 八剣山発見隊の将来展望

八剣山発見隊の将来展望について、八剣山発見隊の隊長である佐藤範行さんに伺いました。

従来、家内工業であった農業を一企業として独立させたいと思います。短期的には、通年で催事を行い、農家に農業はやり方次第で儲かることを実感してもらうことが大切です。事実、冬期間は出稼ぎに出ていた農家が家族と一緒に生活出来るようになったと聞きました。中・長期的には、グリーンツーリズム・滞在型リゾートを目指したいと思います。

札幌市には南区に定山渓温泉という奥座敷がありますね。その定山渓温泉と札幌市中心部との中間に位置する砥山地区は滞在型リゾートとしては最高のロケーションです。その場所に、展示場や博物館、木工、陶芸が出来たら良いですね。そして、札幌市民が週末に自分のコテージを持てて、市民の心のふる里になったとしたら最高じゃないでしょうか。

発見隊隊長の佐藤さんは、農家が自立するためのキーワードは「収入」と「雇用」だと熱く語ってくれました。

佐藤さんと瀬戸さんが出会った「中小企業家同友会」について触れておきましょう。異業種間の交流が大きな目的となっている中小企業家同友会は、北海道内に一二の支部があり、札幌支部には現在一、八四九社が登録しています。佐藤さんと瀬戸さんが所属している農業経営部会は、現在一〇六社が登録して異業種交流をしています。

家庭菜園講習会、花見会、田植え体験交流会、収穫交歓会（会場は南区砥山地区四会場）、長沼温泉での講演会、記念対談（農業と関連産業の新たな連携を求めて）等が農業経営部会としての二〇〇三年の主な行事でした。

一〇六社の構成員を市町村別

ゴミを探しながらの登山

八剣山の山頂にて

に見ると、長沼町が一六社で一番多く、それに札幌市中央区、当別町、札幌市白石区、同市西区、同市豊平区、恵庭市で全体の約六〇㌫を占めています。また、一〇六社の構成員は三一もの業種にまたがっており、農業関係が最も多く全体の三〇㌫を超えています。

八剣山地域のインフラ整備が地域住民に与えた影響について

この地域の農業の発展と地域起こしに関連して、インフラ整備の評価を取り上げます。

南区豊滝地区に在住し、地域のこれまでの経過に詳しい小林久公（ひさとも）さんに伺いました。

小林さんが強調しているポイントは、都市計画作りでの地域住民の直接参加が必要だということです。岩石の崩落事故で分断されていた砥山地区は五年前に八剣山トンネルが開通し、地域住民の行き来が出来るようになりましたが、せっかくトンネルが出来ても、砥山地区の農業者の代弁をするならば農家の手取りが増えたわけでもなんでもないのです。

ここの地区の住民の意志をしっかりと聴き、この地域をどうしたいのか、行政と地域住民とのしっかりしたコンセンサスが必要です。札幌中心部へのトンネルと曲がりくねって通行に不便な道路が出来ただけでは地元住民の利益にならないと、小林さんは強調していました。

八剣山地域の環境変化が札幌市に与える影響について

最後に、この地域の環境の悪

会場を訪れた札幌市長

収穫交歓会：メイン会場のにぎわい

化が札幌市の発展に与えるであろう影響について取り上げ、しめくくりとします。

引き続き、地域の環境問題に詳しい小林さんに伺いました。

小林さんによると、八剣山地区は都市計画からこぼれた地域の一つであると言います。

札幌市は一九七〇年に国有林を除く市域全域を都市計画区域として決定し、市街化区域と市街化調整区域に線引きしました。その時、札幌市の農業振興について充分な配慮が行われず、農業地帯を市街化調整区域のみに限定しました。

その結果、農業地帯は、市街化を抑制する地域として人の住めないところに政策誘導されてきたわけです。八剣山地域は、前述した札幌市の市街化調整区域の一つであり、しかもこの地域が札幌市の水源地帯であるからこそ、札幌に残された唯一といって良い田園地帯を市民のオアシスとして保全し、自然環境と水源地の保全を両立させるべきであり、下水道の設置を行い水質の保全を図るべきなのです。したがって、市街化調整区域だからということで札幌市がその自然環境と水源地の保全をしてこなかったことは大変残念なことと小林さんは締めくくりました。

取材を終えて

ここまで、南区砥山地区で農業を中心として地域起こしに励む人たちを取り上げてきました。札幌市は農業専業地帯ではありませんが、消費者との交流やグリーンツーリズム、自然環境や水資源保全への配慮など、都市近郊型農業としての課題が現れてきているといえるでしょう。

特に、豊平川流域に三つの浄水場があり、札幌市民が必要とする水の大半を供給していることは、札幌市南区が果たすべき役割を明確に示していると思います。

札幌市水道局によると、おいしい水と判定されるためには残留塩素等の水質が基準値を越えないことが必要条件であり、札幌市の水道水に含まれる残留塩素が関東・関西の大都市に比較して三〇㌫以上も少なく、おいしい水と判定されるのは、豊平川の水源地帯（上流）のほとんどを国立公園で守られているためであり、化学物質等が混入する可能性がほとんどないからであるということを最後に強調して、締めくくらせていただきます。

レポーター
地域農研　専任研究員
山下　正治